



駐車場にも水が押し寄せ、水圧でフェンスが曲がったほどでした

令和元年台風第19号 被災から11年

被災者の証言と経験から学ぶBCPD

大きな被害を もたらした台風19号

■被害概要

昨年10月12日、大型の台風19号が各地に多大な被害をもたらしました。広い範囲で大雨・暴風・高潮などを引き起こし、記録的な大雨となりました。国土交通省「令和元年台風第19号による被害等」によれば、ここ5年間の水害・土砂災害の中で死者数・行方不明者数が2番目に多いものでした（最大は平成30年7月の豪雨被害で、死者・行方不明者232人）。高速道路や鉄道も広範囲にわたって影響を受け、通行止めや運行休止など社会に混乱を招きました。

■宇都宮市内の被害の概要

宇都宮市の当時状況は、市がまとめた「令



被害を受けてためになった家具などが歩道に積みまわっています。回収が遅れた地域もありました

和元年台風第19号（東日本台風）に係る被害と復旧等の状況について（最終報）（令和2年3月23日）を参照していきます。

昨年10月12日午後8時、宇都宮市全域に「避難勧告」発令。続く午後8時20分には10月12日午後8時に田川・姿川流域に「避難指示（緊急）」を発令しました。インターネット上では早くから風雨の情報が、時には写真や動画でアップされていました。そしてマスメディアがインターネットで流された動画を改めて報道し、それがさらに人々に広まって危機感を共有していました。それでも「まさか、田川が（姿川が）氾濫したりはしないだろう」と考える人も少なくなかったでしょう。というのも、大きな水害は近年起きておらず、河川管理も万全だと思われていたからです。

しかし、午後7時を回る頃には田川や姿川が溢れ出し、被害が拡大し始めました。そして数時間にわたって、流域を濁流が襲いました。

人的被害は幸いなかったものの、住家被害は床上浸水が636カ所、床下浸水は390カ所が発生しました。道路の冠水は161件、法面崩壊は118件、橋梁被害は4件、通行止めは36カ所、河川溢水は22件などの被害が報告されました。

いまだ残る 水害の影響

被災から1年経つにもかかわらず、栃木県内各所にはまだ災害の爪あとが残っています。報道によれば、水害の影響で廃業した

事業所は17件、宇都宮市でも大谷地区の飲食店など3件の廃業があったとされています。

こうした中、事業者にとっては大きな影響を受け、長年なじんだ土地を離れざるを得なかった事業者や、閉店を余儀なくされた事業者など、今も苦しむ人も多いのではないのでしょうか。

そこで今回の特集では、被災しながらも懸命に事業を立て直した事業者にご登場いただき、当時の状況や、被災から学んだことなどについてお話しいただきます。

interview

01

「被害の惨状を見た時には、 事業が再開できるのかとさえ思いました」

有限会社アーバンエルシー 代表取締役 徳原 龍樹さん

遠方において現場に 任せるしかなかった

私の会社は不動産業です。父の代に創業し、今年で48年目となります。事務所は田川にかかる幸橋のすぐ南にあり、田川から20メートルも離れていない場所にあります。台風19号の被害が大きかった地域です。昨年10月12日、私は富山県にいました。公共交通機関が止まってしまう、戻るに返れなくなりました。そこで、甥に電話をして「事務所に行つて、貴重品だけでも2階にあげてくれないか」と頼み、会社にとって貴重な資料やデータを守ろうとしました。しかし、その時点ではまだ、頭の隅に「まさか田川が氾濫することはないだろう」という気持ちがありました。これまで水害は起きていませんでしたから、油断する心があつたのだと思います。そのため、会社にと



有限会社アーバンエルシー
代表取締役 徳原龍樹さん

って貴重なものは何か、守らなければならぬものは何か、それらはどこにあるのか等、日頃から明確にしておらず、作業が捗りませんでした。私が指示しようとも、遠方からは具体的な指示が出せず、最終的には現場で作業している甥に任せるほかありませんでした。

その後、甥から「水がどんどん増えて、1階の床まで浸水してきました」と電話が入りました。その時点でこれ以上の作業は危険だと判断し、避難するように指示しました。

早く帰りたいくても公共交通機関がなかなか再開せず、やっとの思いで宇都宮に戻ったのは翌日でした。

帰ってきた時には、社員や駆けつけてくれた友人たちが事務所内に溢れている泥をかきだすなどの作業を始めていました。皆が協力して、復旧作業をしてくれる姿をみて本当にうれしかったですね。しかし事務所の状況を見ると、あまりの惨状で声も出さず、愕然としました。これでは事業再開は無理なんじゃないかと思ひ、落ち込んでいました。

一方、一緒に作業していた母は、「今はやるしかない」と前向きで、精神的な強さを感じました。私も何とか元気を出して、少しずつ作業をしていきました。

私ども不動産業は、たくさんの書類を保管しています。特に土地の売買契約書は20年、30年前と古いものが多く、お客さま自身は失くしてしまうことがあります。そのコピーが当社にあることで、次に売買する際に支払う税金なども少なく済むことがあるのです。これらの書類は、いわば私どもとお客さまの歴史と信頼の蓄積です。それが、今回の被災でほとんど水に浸かり、流出してしまったものも多々ありました。家具でさえ流されたものがあり、一度浸かった備品は捨てざるを得ないものが多くありました。事務所に残っていた泥水の跡を見ると、おそらく1.5メートルくらいまで浸水したと思います。

幸い、ノートパソコンは甥が2階にあげてくれていました。しかし顧客の情報が入っていた外付けハードディスクは水没し、2個の



水害直後の田川周辺の様子



災害翌日の事務所内。大混乱になっているのがわかります。

店舗が移転し、更地も増えました。これは他の被災地域でも同様だと思います。しかし私どもの事業は、地域の方々を中心顧客で、地域やそこに住む方々との信頼関係で事業を行っています。父と私、2代かかっていた地域との絆を失うことにはできないと思い、同じ場所での建て直しを決めました。

モノがあるから被災する

うち1個は復旧できませんでした。それでも、残ったパソコンとデータで、事業継続はできる見通しがつきました。その後1カ月ほどかけて、濡れた書類を乾かしましたが、中身が読めなくなっているものもありました。事業は2週目から再開しましたが、事務所が被災したので、当分は在宅勤務でした。知人から商工会議所で補助金を申請できると聞き、活用させていただくことにしました。何度も商工会議所に足を運び、担当の方に相談しながら書類を作りました。

「栃木県中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業(グループ補助金)」の制度を活用し、宇都宮商工会議所が申請したグループの構成員のうちの1社として手続きしました。

補助金は事務所の建て替えのために申請しました。被災当初は「別の場所に移転しようか」とも思いました。実際、この地域からは被災後に企業や

interview

02 「知らせを聞いて駆けつけた時には、道路が川になっていました」

株式会社ガジェットワークス 代表取締役 須藤 和哉さん



株式会社ガジェットワークス 代表取締役 須藤和哉さん

被災から学んだこととしては、デジタル化・クラウド化によるデータバックアップが不可欠ということです。クラウド化することで万が一災害に遭った場合でも、データは遠隔地に保存されていますから、後日復旧作業は早くなります。リモートワークにも対応できるので、これからはしっかりと考えていきたいと思っています。

過去の貴重な資料はこれからも守らなければなりません。しかし、「モノがあるから被害が増える」ということを、今回の被災から学びました。重要な書類もデータ化、クラウド化しておけば、被害も減らすことができるのではないかと思います。

また、物理的な面では、重要な書類等は2階で保管する、1階には今回の浸水の高さである1.5メートル以上の高さに棚を作るなど対策を行いました。災害は来ないと思つていると突然やってきます。日頃からきちんと備えておくことが重要だと思います。



指示したあたりまで、水が上がってきました

人にあります。当時は、台風の被害がほとんど拡大していると報道されていました。大丈夫かなと不安は感じていました。しかし、宇都宮市中心市街地でJＲ宇都宮駅のすぐ近くですから、大きな被害にあらうとは想像もしていませんでした。ところが、夜9時頃に、親しい先輩から「田川が氾濫しそうだ」と電話をいただきました。それでも「いや、そんなことはないだろう」と思いつつ、心配になって車で店に向かいました。午後10時30分頃に宮島町十文字まで来たのですが、すでに道路は濁流で、警察によつて車輛の進入が禁止されており、それ以上近づくことができません。コインパーキングに車を止め、徒歩で店に行こうとしました。しかし一つ東の交差点あたりで諦めました。道路がまるで川のようになつていたので。私は学生時代に競泳をやつたのですが、そういう私でも恐怖を感じたほどの濁流が目前にありました。その後、雨のピークが過ぎた午前1時頃にもう一度来てみました。その時はお店ま

で来ることができましたが、夜目にもひどい有様でした。スマホ用のケースなど商品のほとんどは水をかぶつていました。

翌日朝8時にまた来て、明るい中でお店を見た時は声が出ませんでした。被害の状況を調べ始めましたが、周辺も店の中も、形勢がたい泥のにおいが立ち込めていましたね。

お客さまからお預かりしていた修理品は、すべて水没していました。お客さまにお詫びする際、大変なお叱りを受けることも覚悟していました。端末だけでなくその中に入った大切なデータまで喪失してしまつたからです。

しかし、お客さまに状況を説明し、今後の対応についてお話しすると、ご理解いただけることができました。むしろ、お客さまから心配の声や応援の声をいただき、この優しさに大変励まされました。お客さま自身も大切な

写真等のデータをクラウド化されているケースが多く、復旧が容易だったことが不幸中の幸いだったのかもしれない。

その後、修理可能なものは修理しましたが、商品在庫やお客さまへの補償なども含めて、総額300万円ほどの被害額でした。

被災後はスタッフや、駆けつけてくれた友人たちと、店舗の掃除をして、近所の方々とも協力して復旧を行い、1週間後には再開することができました。周囲からの協力が、本当にありがたかったです。

オープンして2カ月目での被災でしたが、12月にはずいぶん売上は戻りつつありました。希望が見えてきた矢先に、今度はコロナ禍で、また売上げがぐんと落ちました。

ここで諦めたら負けという「意地」

そこで商工会議所に足を運び、「小規模事業者持続化補助金台風19号、20号および21号型」を申請することにしました。こ

の補助金では、小山の「ハーベストワーク」に出店する際の内装工事などに利用しました。宇都宮駅西口大通り店は、リニューアルに向けて休業状態でありながらも、小山店を新たに開店したことで会社全体の売上は前年より伸びています。

の重要性をこれほど強く感じたことはありませんでした。特に、私はもともとこの地域にはゆかりがなかつたのですが、開店にあつたところ近所の方々にあいつするなど、溶け込もうと努力していました。だからこそ、被災の時に皆さんが力を貸してくださつたのだと思います。コミュニティの大切さを実感できたのは、大きな収穫でした。

宇都宮駅西口大通り店を移転するという選択は私にはありませんでした。開店からまもなく、台風19号とコロナ禍というダブルパンチを受けた以上、ここで諦めたら負けだという「意地」がありました。お店の立地が良いので何とか軌道に乗せたいですね。

これからは、スマホ・パソコン修理に加え、買い取り業務も始める予定です。今までもスマホの買い取りはしていましたが、新たにブランド品や貴金属品などオールジャンルで取り扱っていくリニューアルを行っていきます。

被災して一番強く感じたのは、コミュニティの大切さです。友人や地域のコミュニティ

台風19号に被災しながらも、事業を立て直すために懸命に取り組まれてきた2人ですが、両者とも「まさか水害にあつたとは思つてもいなかった」と語られています。災害は突然やってくるもので、被災してからの対応では限界があります。日頃から災害に備えてBCP(事業継続計画)を作つておくことが、重要なのではないのでしょうか。当所でもBCPに関するご相談を受けていますので、まずはお問い合わせください。



商品在庫のほとんどは水と泥で売り物にならなくなりました



店内全体が泥まみれになりました

問合せ
経営支援部
☎028-637-3131